

技術家庭科（家庭分野）の分析と改善策

1 年

① 分析

項目	分析
関心・意欲・態度	・授業に関し興味・関心をもって取り組んでいるという設問に関し、そう思う、ややそう思うとの回答が94%であった。単元が食生活であるため、興味・関心をもって授業に臨んでいることがわかる。しかし、クラスの中でも活発に発言する生徒が決まっているので、多くの生徒が発言できるように授業を進めていく。ノートやプリントにまとめることができるが、時間がかかる。そのためじっくり考える時間がないと感じている生徒がいるので、もう少し時間をとっていきたい。
生活を工夫し創造する能力	・関心は高いが、生活経験が少ないので食品や調理法を結び付けることができにくい生徒もいる。多くの献立の事例を挙げながら、調理の工夫につなげていくことが課題である。
生活の技能	・実習においては、まだ1時間行っただけなので流れがつかめないようである。90%は意欲的に取り組んでいるので、その気持ちを実習で活かせるようにしていきたい。今後、基本的な技能の定着にも努めていきたい。
知識・理解	・基本的な内容については、小テストで定着していると思われる。更に調理についての知識も深めていきたい。

②具体的な改善策及び生徒の活動や発表力を身に付けさせるための工夫

- ・ 目標（めあて）を考えて授業に取り組む意識が低い。毎時間、冒頭に目標を提示しているが、更に具体的な目標達成の評価を取り入れ明確にしていく。
- ・ 多くの経験を重ねることができるように、実技、実習回数を増やしていく。
- ・ 効率的な活動ができるように、班活動を工夫するように設定し考えさせていく。
- ・ 調理技能の定着のために、課題を設定して家庭での実践の機会を増やす。

2 年

① 分析

項 目	分 析
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・衣生活の単元で、作品製作に取り組んでいる。目標について、毎時間考えて製作を進めているが、71%が自主的に授業に取り組んでいるものとする。目標を考えていない生徒は、手順を確かめずに教員に個人的に指導を受けることが多い。できるだけ考えて行動できるように、指導に工夫していく必要がある。 ・授業に興味のある内容について、24%があまりなかったと回答している。ミシンを不得手とする生徒もいるためと思われる。
生活を工夫し創造する能力	<ul style="list-style-type: none"> ・作業を進めるために工夫することの必要性を考えていない生徒も見られる。
生活の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ミシンや基礎縫いについては、1年次に引き続き継続的な学習のため少しずつ技術が定着していると思われる。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・考査の結果よりおおむね理解している。授業の説明や手順書を自分で理解できるようにすることが課題である。作品製作作業を言語化し、自ら説明できるようになることを目標とする。

②具体的な改善策及び生徒の活動や発表力を身に付けさせるための工夫

- ・ 毎時間目標（めあて）を黒板に提示し、全員カードに記入している。それにもかかわらず、目標を意識して授業に取り組んでいない生徒が28%であった。授業内容と目標がより意識できるように授業を行っていく。
- ・ 興味関心を高める教材、資料の提示に努め、日常生活に生かすことができるように、デザインや色を選択させ製作に楽しみをもたせる。
- ・ 基礎的・基本的な技能の習得の定着に向けて、繰り返し授業に実習を取り入れていく。
- ・ 生徒の様子に合わせて、じっくり考える時間の設定に心掛ける。

3 年

① 分析

項 目	分 析
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に発言をする生徒は多く、意欲的に実習にも臨んでいる。持ち物や提出物について、指導する必要がある生徒もいる。
生活を工夫し創造する能力	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や教師の説明をそのまま受け取る姿勢が見られ、表現に工夫することがなかなか結びつかない。作品について、アドバイスをすることにより努力して工夫する姿勢が見られた。
生活の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃ製作において、基礎的な手縫いのため自主的に製作に取り組むことができている。声掛けや師範を行うことで、やり方を学び、取り組むことができている。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・考査の得点は非常によい。隔週で授業時数が少ないので、内容の復習に十分時間をとることが課題である。

②具体的な改善策及び生徒の活動や発表力を身に付けさせるための工夫

- ・ 自分で計画した布を使ったおもちゃ製作を行っているため、意欲的に取り組む姿勢がみられるので、これを持続させるように製作につなげる。
- ・ 技能の習得には、生徒同士の学び合いの場を設定していく。
- ・ 作品鑑賞により、多くの作品よりアイデアや工夫を学ばせる。
- ・ 課題（宿題）の発表により、幼児に関する興味をもたせ、知識・理解を深める。